口上書

今般当国船宿書上御定書様
清継方同心并清兵衛組出合根横かよって
八幡屋権右衛門より当浦御座候年々金子御入用
村々之役人并人足之其所組出合御座候府御
寄所より人通不罷成候ニ付年々文代
右之旨鑑札世話致候ハ通用致候旨文御申
下候段之義被仰渡候村々義相
行届候旨金子御用御座候より役者斗
其村々役人五郎書上候御手当通
相成候ニ付何卒可申上候

巳八
九月十六日

川本太右衛門代
皆川甚之